

## 第 25 回 Make Poverty History に参加して

こんにちは、SOAS の小林亜希と申します。

先日、一緒に IDDP スタッフをやっている白木さんと共にロンドンの Trafalgar square で行われた "Make Poverty History" というイベントに参加してきました。とても感じることの多かったイベントだったので、私を感じたことを、他の参加された方、もしくは参加できなかったけれど興味のあるという皆さまとシェアしようと、思い切って書かせていただきます。興味と時間のある方に読んでいただければ幸いです。

(注1:あくまでも私個人の本日のイベントに対する解釈だということをあらかじめご了承ください。注2: IDDP の ML に登録されている方には同じメールになってしまいますので無視してください。)

イベントが始まる 2 月 3 日の正午、Trafalgar Square は小さな子供から老人、そして様々な人種の人の波で埋め尽くされていました。この多様性こそがロンドンで行われるイベントの魅力だといつも思っています。イベントは小一時間ほどで、黒人女性が司会を務め Oxfam の代表者のスピーチ、子供たちのショートスピーチ、アフリカ人の若者のスピーチ、黒人シンガーの歌、ネルソン・マンデラによるメインスピーチといったような構成でした。(その他にもいくつかありましたが)

自分自身とても意外だったのは、今日最も“私の”心に残ったのは、アフリカ人の若者のスピーチであったということです。もちろん Oxfam の方のスピーチも素晴らしく、何よりもあのネルソン・マンデラのスピーチは重みがありましたし、その姿が見られ、声が聞けたことは貴重な体験でした。彼の名前があったからこそ、平日の昼間にこれだけの人数を集められたのは間違いありません。

しかしそれとは切り離して、最も私の心にせまりくるものがあったのは、名前も立場も覚えていない若者の情熱的な 4 分間のスピーチでした。先進国(特にイギリス)の人々に各政府にプレッシャーをかけてほしいことアフリカの現状には先進国の責任もあること、戦争に使われるお金は飢えて死にゆく人々に使われるべきこと等語り、細かい内容はアカデミックな立場の人からみればつつこみどころ満載でしたが、私が心を打たれたのは彼の“アフリカ人としてのプライド”と“未来へかける熱い想い”でした。助けてくれと媚へつらうわけでもなく、また、責任をとれと開き直っているわけでもない...堂々とアフリカを語り、協力を求めるその姿が印象的で先進国の NGO 代表者でも開発学の教授でもない、当事者により近いところにいる者の口から貧困の問題が情熱を持って語られたとき、それはさらに力強い説得力を持つのを感じました。わたしは今後、アフリカやその他の貧困を抱える国の人々がこのように熱く語る姿をもっと見たいと思ったし、その本人たちの姿勢こそが一番大事だと感じました。

「食べる物もないアフリカのかわいそうな人たちのために何かしてあげましょう」という、強者が弱者に慈善をほどこすという考えとは全くちがう

「アフリカの貧しさには先進国も責任がある」

「poverty に苦しむ人々の権利 (rights) のために共に戦っていこう」

というイベント全体を通しての力強いメッセージは、開発学を学んでいる人には当たり前の考えとはいえ実際にその思いを肌で感じ、多くの名も知らぬ人たちと共感したときに、今までにない感動がありました。

そしてこの感覚を、開発学を学ぶ人たちのみではなく、日本の“普通の”人たちにも味わってもらえたらどんなにいいかと思っし、G7 の一員である日本国民はそれを感じる必要があると思いました。日本のマスコミはこんなことは報道しないのだろうか、と思うとそれが非常に残念です。

もうひとつ印象に残ったのは、杖をついて支えられながら歩くマンデラの老いでした。どんな偉大なカリスマ指導者も老いてゆきます。彼の想いや功績を若い世代がどんどん引き継いで、新たな movement を起こしていくことの大切さ、そしてその責任を感じました。そう感じたからこそ、子どもたちのスピーチ、アフリカの若者のスピーチがより印象的だったのかもしれない。

今日のイベントは、どちらかといえば感情にうったえかけるような雰囲気だったし、じゃあ、具体的にはどうするのか、といった理性的な面がやや薄かったということは確かに指摘できると思います。(ブレアやG7の代表者たちにどのくらいプレッシャーをかけられたのか、などは疑問です)けれども、こうして人々が何かしたい、何かしよう、といった情熱を持つこと、少しでも何かを行動に移そうとすることがやはり全ての活動の原点なのではないかな、と私は思っています。

知識などが充分ではなくアカデミックな視点に欠けることは百も承知ですが、Trafalgar Square で感じた一部でも皆さまにお伝えできればと思いました。他の参加した方々、していなくても色々思うことのある方々の意見や感想をお聞きすることができたらうれしく思います。それでは。

2005年2月3日

小林亜希

MA Pacific Asian Studies

The School of Oriental and African Studies

University of London

